



第22回 山口大学おもしろプロジェクト 4月



第22回おもしろプロジェクト'17に向けてのガイダンス開催



第22回おもしろプロジェクト'17の募集にともない、おもしろプロジェクトに関するガイダンスが開催されました。吉田地区では、4月18日13:30から共通教育棟15番教室と同日16:30から共通教育棟11番教室での2回、常盤地区では4月13日18:00から本館1階第1セミナー室で、小串地区では4月14日16:30から医心館2階談話室でそれぞれ開催されました。

ガイダンスでは、まずはじめに「おもしろプロジェクト」に関するシラバスおよび「申請書の書き方」に関するシラバスが紹介されました。これは「YU-AP（大学教育再生加速プログラム）」にて、おもしろプロジェクトが正課外教育の先駆けとして位置づけられたことに伴うものです。その後おもしろプロジェクトの概要の説明が行われ、論理的表現と申請書の書き方のコツが紹介されました。

参加者は熱心にメモをとりながら、今年度の申請に向けてしっかりと聴講していました。ガイダンスに用いられた資料は、シラバスを含めて、ホームページにて公開されています。

第22回おもしろプロジェクト'17を募集締め切りました

「山口大学おもしろプロジェクト」は、自由な発想に基づく正課外活動実施のための資金支援制度です。1996年より開始されており、20年以上の長い歴史があります。そして現在では山口大学の特色ある教育プログラムの一つとなっています。

「第22回おもしろプロジェクト'17」の企画を募集し、4月28日をもって募集を締め切りました。今年度は、募集区分として、「通常型」（最高支援額50万円）、「Light型」（最高支援額10万円）、「テーマ型」（最高支援額10万円）の3つを設けました。「通常型」への申請は6件、「Light型」へは3件、「テーマ型」へは1件の申請がありました。5月中旬の書類選考およびヒアリング選考を経て（「Light型」と「テーマ型」は基本的に書類選考のみ）、5月下旬に本年度のプロジェクトが決定します。6月には採択プロジェクトに対する説明会が開催され、この説明会より約1年間をかけて、各採択プロジェクトは活動することになります。

今回より募集を行った「Light型」や「テーマ型」に関する申請が思ったより少なく、現在これらの追加募集に関して検討が行われています。

**多数のプロジェクトの応募
ありがとうございました**



キミのやる気を応援します

**第22回
おもしろプロジェクト'17
プロジェクト募集**

おもしろプロジェクト(おもプロ)とは
学生の自主的・創造的企画に資金支援する山口大学オリジナルの学生支援事業です

【募集要項・申請書】
山口大学ホームページ「おもしろプロジェクト」
からダウンロードできます

締切日 4月28日(金) 13:00必着

【問い合わせ先】

学生支援部学生支援課支援企画係 学生自主活動ルーム
電話 083-933-5087
メール omopro@yamaguchi-u.ac.jp

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**



第22回 山口大学おもしろプロジェクト 5月



2017年度おもしろプロジェクトの決定

第22回おもしろプロジェクト'17のプロジェクトが決定しました。いずれもユニークにあふれるプロジェクトです。これからの1年間、しっかりとプロジェクトを遂行し、有意義な大学生活の一助としてもらえれば幸いです。これらのプロジェクトは学内でも様々なイベントを行なうこととなります。おもしろプロジェクトをしていない学生の皆様も、そうしたイベントに参加することで、「おもプロ」に触れていただければと思います。また現在第二期募集中であり、さらにプロジェクトが増えることになると思われます。第二期の採択結果は後日お知らせいたします。

【通常】CodeOrange～Save Life～

私たちCodeOrangeは、山口県内における心肺蘇生法を目的とするサークルで、学生・一般の人たちに心肺蘇生法の講習会を開いている。今年度は、更なるメンバー教育の充実や、これまで以上に地域に根差した活動を目指すことを重点に置く。今年度は新たに、山口大学本学や、地域のイベントでBLSを含むファーストエイド講習会を開催することを予定している。BLS講習会の開催や、ボランティア活動を通して、山口県内における心肺蘇生法の普及並びに救命率の向上を目指す。

【通常】ICT救急改革～救急搬送支援システムで救命率向上を目指すプロジェクト～

本プロジェクトは、救急搬送支援システムを開発し地域自治体に導入してもらうことで、地域の救急医療資源を有効活用し、救命率の向上を目指すプロジェクトである。プロジェクト初年度となった昨年度は、システムのベースとなるインターフェイスやサーバーの構築を行った上で、宇部市および宇部・山陽小野田消防本部に対してデモンストレーションを行い、導入に向けた関係性構築を図った。プロジェクト2年目となる本年度は、以下の3点を目標として活動を行いたいと思っている。1.重症度判定システムの開発・既存システムへの組み込み、2.他自治体で導入されている類似システム運用状況の視察（佐賀県、さがネット）、3.地域自治体とのさらなる関係強化。

【通常】スぺ研

山口大学宇宙開発プロジェクトは、cansatやロケットの製作などのものづくりを通して宇宙開発を行うことで、学生の宇宙への興味を実現させていく活動です。同プロジェクトは昨年度で3年目となります。今年度は大きく分けて3つのプロジェクトを進めていきます。モデルロケット、cansat、ハイブリッドロケットの製作です。モデルロケット製作では昨年度の課題を発見しより正確に飛行する機体を作ります。缶サットでは新たにプログラミングの勉強会を企画し基礎知識を蓄えようとして機体の製作を行います。ハイブリッドロケットでは燃焼試験を目標に基礎知識を蓄えていきます。cansatとモデルロケットについては3月に開催される種子島ロケットコンテストに出場し、各部門で良い成績を目指します。コンテストでは他大学の学生と交流し、互いに技術を吸収し合い、我々のものづくりを発信していきたいです。この3つのプロジェクトを中心に活動し、ものづくりの技術を磨き、全国の学生に発信することを目的としています。

【通常】家庭医療へんぎょう会～地域医療を山口大学から発信する～

医学生・看護学生が、離島やへき地で、フィールドワークやインタビュー、交流会などを通じて持続的に地域に関わることで、健康寿命の延伸や地域の活性化を担うこと、また、山口県で圧倒的に不足する、在宅医療の現場やへき地医療の現場での実習を行い、地域医療を担う医学生や看護学生のロールモデルの確立や地域で活躍する現役の医療従事者から学ぶことを目的とする。そのために、地域医療・介護・福祉に携わる方々のもとでの実習を行うこと、エキスパート講師の招聘による知識の向上、継続的な地域への健康づくりへの参画を行う。これらの活動を通して将来目標とすべき医師像・看護師像を描き、自主的な課題・目標を設定して有意義な大学生活を送る。そして、卒業後も明確な目的を有した医療従事者を育み、山口県の地域医療の裾野の拡大に貢献できるものとなる。

【通常】電脳飛行

平成29年9月に開催される、「第13回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト」に出場して上位入賞を目指す。飛行ロボットの設計や製作をして、飛行練習などに取り組むことで工学への理解を深めるだけでなく、通常の授業では経験できない、ものづくりの難しさを学ぶ。オープンキャンパス等のイベントにも参加して、多くの方々に大学の活動の一つとして「電脳飛行」を知ってもらい、ものづくりの面白さや楽しさを伝える。

【light】まきちゃんと竹であそぼう

学校にある必要とされていない竹を何とか利用できないかと考えました。このプロジェクトでは大きく2つのことを予定しています。1つ目は、竹箸づくりを通じて、留学生や地域の人と交流をはかり一緒に、ものづくりの楽しさを学びます。また、環境について考えてもらうため要らないものを必要なものに變化させることや、箸で食事をとる日本の文化・マナーについて体験してもらいます。2つ目は、竹を加工して彫刻を施せたらと考えています。竹のもつ質や魅力を実際に触れて引き出していきたいです。

【light】いろとわ

学生同士で分け隔てなく交流できる場は少なく、自己表現をする機会もあまりない。そこで、作品を通じた交流の機会を提供したいと考えた。テーマを話し合いで決め、1週間でテーマに沿った写真を各自で撮影し、それをもとに交流を行う。写真があることで、話題には困らず、初対面であっても交流しやすい。写真という手軽さから自己表現もしやすいのではないかと考える。撮った写真は1週間ホワイトボードに掲示し、その後フォトブックを作成する。自己表現として撮った写真がひとつの「作品」として丁寧に扱われる喜びや、表現の楽しさを参加者に感じてもらいたい。

【light】召しませ、忍者飯！

『忍者』や『武士』は日本の文化を代表するものの一つであり、その存在は世界でもよく知られています。そんな忍者や武士の携帯食として有名な『兵糧丸（ひょうろうがん）』を実際につくって食べ、当時の食文化に対する理解を深めるために『兵糧丸調理・実食会』を開くことを考えています。兵糧丸を食べてみたい歴史好きの方や、日本の食品保存技術に興味がある方に実際に「つくって食べる」機会を提供します。また、現在のような食品保存技術のなかった時代の食品に触れ、いつでも新鮮で美味しいものが食べられる生活環境について考えるきっかけをつくるような調理・実食会を目指します。学内で希望者を募り、10～20人ほどの定員で『兵糧丸調理・実食会』を一度行い、実食の後に「現代の保存技術の恩恵とそれがもたらした生活の變化」をテーマに3～4人でグループディスカッションと全体での発表を行います。

【テーマ】いろいろと～てまりでつながろう～

本プロジェクトの目的は、「加賀手鞠」を作ること、見ることを通じて、日本伝統の文化を身近に知るきっかけを作り、「手芸」というツールによって、コミュニティの形成を図り、交友関係を深めていくことである。この目的を達成するために、以下のことを計画している。まず、1年を通して週に1度の加賀手鞠制作のワークショップを行う。次に、春・秋の年2回、夏季休業時の短期留学生に向けて作品の展示・紹介をする。また、地域の針供養などの伝統行事への参加を予定している。

おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています

Code Orange

新たに2年生が13人加入してくれ、定例会では1人ずつスライドをその作ってきたもので、自己紹介を行いました。また5、6月の大きなイベントとしては、西医体安全対策講習会・部活動講習会でCodeOrangeの主な活動内容であるBLSの実技講習を行いました。毎年実施している部活動講習会ですが、今回は西日本医学科生が一番大きな大会である西医体の主管を山口大学が行うため、責任者として万が一に備えた安全対策講習会も同時に実施いたしました。例年に比べて多くの100人程度の受講者に向けての講習となりました。講習会後に毎回思うことですが、やはり人に教えるという事は自身がどのくらい理解しているかが顕著に表れると思えました。人に教えていく中で疑問に思ったことや反省点をその場で感じるだけで終わらせることなく、しっかりとフィードバックをして今後の講習会に生かしていきたいと思えます。また、新入部員が入ってくれたこともあり、また1から学びなおす良い機会でもあるので、些細なことでも1つずつ解決していきたいと思えました。これから七夕祭や医学祭などまだまだ実践する機会がたくさんあるので、メンバー全員で協力し高めあってより良いサークルにしていきたいです。



講習会の様子

召しませ、忍者飯！



兵糧丸試作品
第一号

兵糧丸の試作品、記念すべき第一号が完成しました！ きなこ、ゴマ、小麦粉など基本的な材料で作ったのですが、なんともそっけない味でおいしいとは言い難いものに……。不味くて食べられない、ということはないのですが、そのままでは完食も難しそうな味でした。試食会で残さず食べきってもらうためには味の改良が必要です。しかしながら今回の試作品で、餡子や餡蜜をつけて食べると和菓子のようになることもわかりました。材料に砂糖やはちみつなどを入れてみてもよいかもしれません。また、野外活動雑誌に兵糧丸のレシピが載せられておりましたので、こちらのほうも参考にしていきたいと思っています。このレシピでは、チョコチップを兵糧丸に加えており、とても食べやすそうでした。このプロジェクトに興味を持ち、構成員として参加したいと考えてくれる方も多く、とてもうれしくおもっています。おいしく食べられる兵糧丸を目指して、来月も試作を重ねていく予定です。

電腦飛行

今年度の電腦飛行の活動を6月15日から開始しました。活動の時間は話し合いにより毎週木曜日の16時10分から行うことにしました。初回のミーティングでは、顔合わせと9月1～3日に開催される室内飛行ロボットコンテストまでの計画について話しました。昨年と同様、一般部門と自動操縦部門への出場が決まりました。その後、大会のレギュレーションを確認しながら各部門で挑戦（重視）する競技種目について議論し、両部門の機体のコンセプトを決めました。この議論を踏まえて、一般部門の機体を設計しました。一般部門の機体は、昨年度の活動で得られた経験から安定性を重視し、以前よりも機体を10%程度小型化して機体を軽量化することが決まりました。また機体の尾翼部分の製作も既に始めています。大会で高得点を狙うには操縦技術が大事だという昨年度の反省から、去年製作した機体を用いて飛行練習も始めました。そして操縦の上手な人が両部門に分散するように、大会でのメンバーの構成を決定しました。



操縦練習

いろいろと

このプロジェクトで初めての顔合わせ会をし、そしてこれから一年間を通じて行うワークショップについての計画、またワークショップ以外のイベントの予定について通知、内容についての話し合いを行いました。さらに、短期留学生向けのイベントであるサマープロジェクトにて、参加する日時や内容を打ち合わせしました。開催日は7月25日と8月1日の14:30～15:30に決定しました。学生自主活動ルームにて作品の展示と実演をします。

おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています

2017年度第二期募集による追加プロジェクトの紹介

6月に実施しました第二期募集により、新たに5つのプロジェクトが「第22回おもしろプロジェクト'17」に加わりました。5月に採択されたプロジェクトとあわせて計14プロジェクトが、これからの1年間活動することになります。おもプロを見かけたら、少し興味をもってのぞいてくだされば幸いです。

【light】絆

今回のこのプロジェクトの目的は3つである。1.食品廃棄率の減少、2.農家の生きがいの創出、3.農家と学生のつながりの創出をすること。そのために、普段農家で食べることが出来ず廃棄されている農作物を希望者の学生に対して提供し、農作物を受け取った学生から農家に対してお礼の手紙を書いてもらう。そこで農家と学生をつなぐを紡ぎ、お年寄りには野菜を作るやりがいを得てもらい、学生には農業、農家の方に興味を持ってもらう。

【light】エン会プロジェクト

学生協働とは、学生目線で図書館利用を促進し改革する活動を行う団体であり、全国唯一の医学生による学生協働として全国学生協働シンポジウムにこれまで2度活動報告をする等、全国に向けて活動実績を発信し、注目を集めてきた。また、学内から地域へ飛び出し、地域の中高校生との意見交換会、交流会、特に本に接する機会を増やす事を目的とした読書会を開催し、大成功を収めてきた。今回、新たに本のみならず、医学生目線のボランティア企画、音楽、映画、陶芸、園芸、料理など参加者各々が関心を持つ文化活動を紹介しあひ楽しむというエンターテイメントを持ち寄りシェアする会「エン会」の開催を立案した。この会では地域で活躍するプロをお呼びし、実演、講演していただく講演会も同時に行うことで持ち寄る文化活動がない人も気軽に参加できるものである。エン会プロジェクトとは、各々が興味、関心を持つ文化活動を紹介しあひ楽しむという「エンターテイメント～エン～」が主旨であるが、さらに人の縁（えん）、地方創生を発信する圏（その・えん）、そしてそれらが集まり大きな輪になり作る円（えん）も目指している。

【light】カンボジアの子どもたちを支えよう！

山口大学が行っている国際交流イベントとして、「カンボジアで運動会を開催」するというものがある。その交流活動の一環に、現地の子どもたちに文具などを寄付しているそうだ。ただ、その文具を集めることが非常に困難であるとのことである。また、カンボジアという国に関して、日本の中高生はもちろん、山口大学生も詳しい現状を知らない。そこで、私たちは、ワークショップを行ったり寄付物募集のために中学校・高校を回ってカンボジアの紹介動画を流したりして、山口大学及び山口県の中高生にカンボジアという国を知ってもらい、山口県とカンボジアの橋渡しとしての役割を担いたいと考えている。

【テーマ】TRICK ART！

正門前の横断歩道での自転車の降車や駐輪場所などの規則が守れていない学生が多く見られます。そこで、私たちは、これらの自転車問題を、トリックアートを用いることで解決したいと考えています。視察や試作を経てトリックアートを完成させ、実際にトリックアートがどれだけの効果を与えられるのかを検証します。また、学内の行事である「てくてくツアー」や「サイエンスワールド」と連携して、私たちの取り組みを紹介して、地域にも広報を努めていきたいと考えています。実際に検証する際には、リスクマネジメントに十分注意して取り組んでいきたいです。

【テーマ】Let's connect with Japan！！

平成27年度の国際総合科学部の新設に伴い急激に留学生が増加していることを踏まえて、多くの留学生がより満足した生活を送れるように特に課外活動の面での充実をはかる。活動計画として留学生、山大学生および地域住民を交えた日本の文化体験を考えている。留学生に対するヒアリング調査を行った後、彼らの希望を参考に活動案を作る。例えば日本食、武道、芸術を体験するワークショップを開催する。また1年を通して継続的に行いたいので日本の四季にそった文化活動を提供する。

スぺ研

7月9日に部室であるプレハブ小屋にて常盤工業会の助成金の予算案についてのミーティングを行いました。ここではモデルロケットや缶サットの部品の価格を調べ、計上し、それについての説明を考えました。7月14日には常盤工業会で助成金についての面接を行いました。助成金は予算通りいただくことができました。しかし面接での予算案の確認が不十分だった点や受け答えに道理が通ってなかったりと不備が目立ったので面接の準備をより丁寧に行わなければならないと反省しました。7月13日には地方テレビの「ちぐまや家族」の取材を受けました。モデルロケットを実際に発射し、活動の説明をしました。テレビ局の出演で我々スぺ研の活動を山口に発信することができたと考えます。7月28日にはオープンキャンパスでのおもしろプロジェクトの紹介のためのモデルロケット打ち上げに使うロケットを製作しました。ロケットは設計図を作成し、部員で役割分担をしながらロケットを完成させました。



TV取材を受ける

まきちゃんと竹であそぼう



サマープログラムにて竹箸作り

今月は竹を切り、サマープログラムを二回実施と、怒濤の一ヶ月でした。まず、竹を切っているときに一番感動したのは、竹用鋸の切れ味です。普通の鋸とは雲泥の差で、道具の大事さを痛感しました。次に、サマープログラムの一回目では、10人の参加者がありました。実際やってみて、留学生には私が説明したことの半分も理解できていないことに気づきました。竹を箸の長さで切って、先をカッターで削ったこと、着色での効果的な色の順番、水の分量については、日本語の難しさや説明における配慮（現物を見せながらの説明、ゆっくりと簡単な言葉で、など）が不十分で、理解しにくかったようです。二回目は、説明の分量を減らしました。というのも、一回目では説明した方法はできていないものの、自分たちなりに工夫してうまくやりぬけていました。だから、説明を「ザラザラ」を「ツルツル」に、と、箸の半分から上だけ色塗り、の二点に絞りました。理解できない説明を受ける不安を取り除くことができ、結果的にしっかりと作業に集中できているようでした。

Let's connect with Japan !!

4名の学生が8月12日に行われた平川地区盆踊り大会および盆踊り大会のための調理、着付けと盆踊り指導のボランティアとして参加しました。今回のようないわゆる日本の文化体験に日本人が参加する意味というのは次ようなところにあると思います。例えば盆踊りにしても浴衣の着付けにしても、私たち世代はきちんと説明ができないように思います。自国の文化を知らないというのは思った以上に恥ずかしいことです。そんな私たちが留学生と一緒に一から日本文化を体験し学び直し、彼らと意見交換することで自国の文化についての知識を持った上で外国に触れることの大切さを思い知ることです。今回は日本人学生の人数が少なかったからこそ留学生と話をする機会も多くなり一人ひとりが留学生との言語交換を体験できました。またボランティアでありながら純粋に地域の祭りを満喫できたというのはサークルとして大切なことだと思います。相変わらず風の会の活動に圧倒されてばかりの1ヶ月だったのでアンケートははじめ予定していたことをきちんとこなしたいです。



平川地区盆踊り大会

家庭医療べんきょう会

8月17日から19日にかけて行われた地域医療セミナーに家庭医療べんきょう会から6名参加しました。長門で行われた今回のセミナーは計画段階から実行委員として参加し、ニーズにマッチしたセミナーを作れるよう努力しました。今回のセミナーから萩看護学校や県立大学の看護学科も積極的に参加し、総勢39名での実施となりました。各学生が様々な医療機関や福祉施設、NPOを訪れ実習を行いました。様々な場所で様々な活動を地域で見るという家庭医療べんきょう会としてもとても重要な機会を頂きました。今回の体験を自分たちのものだけにするのではなく、山口大学に持ち帰り、9月の下旬に報告会を実施しようと検討しています。発信をしていくことがとても重要なので、経験をシェア出来るよう、色々な仕掛けをしていきたいと考えています。また10月以降に看護についてのイベントも実施しようと現在検討中です。この件には宇部市のまちなか保健室の方々のご協力を得て実施予定です。



地域医療セミナー
(長門市)

エン会プロジェクト

山口大学医学部図書館にて慶進高校の生徒6名及び慶進高校の教員2名と「新しい読書会」の形について話し合いました。毎年、慶進高校の学生と読書会を開いていたという経緯もあり今回も協力をお願いしました。お互い初対面であったこと、「新しい読書会」には趣味や地域交流など様々な事も盛り込まなければならないとみんなが難しく考えすぎたこともあり、最初は活発な意見交換があまり見られませんでした。しかし後半では趣味を盛り込んだ読書会、地域交流という観点からみた読書会というようにより細分化して考えるようにしたところ各々が自分の意見を言い合う実りある話し合いとなりました。最初から完成形を求めるとはせず部分、部分をとりあえず考えて形をつくっていければいいなと感じました。この話し合いを通して「新しい読書会」のイメージがより鮮明なものとなりました。今後、「新しい読書会」をより具体的なものにしたり実際に行うことを決めたりしていきたいと考えております。



「新しい読書会」
を考える

ICT救急改革

今月は夏休みでメンバーが帰省したこともあり、団体全体としての活動は月末にしか行うことができませんでしたが、開発部門においては単独に必要な勉強や、データベースからデータのダウンロード機能の開発など、必要な機能の開発を進めました。また月末には消防とのミーティングを行い、開発中のシステムと既存の救急システムとの接続に関する話し合いを行いました。消防本部の情報指令課長との話し合いの結果、技術的に接続することはほぼ間違いなく可能であるものの、現在宇部市・山陽小野田市消防本部が使用している署内システムはベンダーに外注しているもので、それに勝手につなげることができず、今後その企業との話し合いが必要ということがわかりました。10月末に消防本部とシステムベンダーとの間で会議があるようなので、それまでに提案書をまとめ、その会議にて連携の打診をすることを今後の目標とすることになりました。

おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています



第22回 山口大学おもしろプロジェクト 9月



TRICK ART !

今回、トリック3Dアートミュージアムでの視察を行う中でどのようにトリックアートを制作するかについて見直す必要があると感じました。このミュージアムはほとんど全てのアートで写真撮影をして良かったため、いろいろな角度から撮影することができました。その中で、自分たちにとって作りやすいものや作りにくいものなど、具体的な話し合いを行うことができました。今回視察に行けなかったメンバーにも写真を通していろいろと伝えることができました。私たちは静止画での作成をメインで考えていましたが、動画でのトリックアートにとっても興味を持ったので、いろいろなトリックアート作成に取り組んでいければよいと思っています。イベントなどで発表、展示等をしたいとも考えているので、どのような仕組みでできているのかや、身近なところにあるトリックアートについても紹介できるようにしていきたいです。また、本格的な実験が進んでいないので、今月は実験をする中で具体的な形にしていけるようメンバーで協力して取り組んでいきます。



トリック3Dアート
ミュージアムへの
視察

電脳飛行

9月1日から9月3日までの間、東京都大田区の大森スポーツセンターで開催された第13回全日本学生室内飛行ロボットコンテストでの一般部門、自動操縦部門の結果について報告します。大会1日目は大森スポーツセンターへの出場機体の輸送や動作のチェック、機体審査、飛行練習を行いました。翌2日目は開会式および一般部門・自動操縦部門の予選を行いました。自動操縦部門については残念ながら機体トラブルのため、決勝には進めませんでした。一般部門は決勝へと進むことが出来ました。3日目の決勝では一般部門においても競技中、モーターの線が切れてプロペラが回らなくなる、という機体トラブルが発生し、予定していた全てのミッションに挑戦することは出来ませんでした。両機体共に想定していなかったトラブルに見舞われ、全力を出せたとは言えない結果となってしまいましたが、自動操縦部門でのポスター上の説明を評価され、ベストプレゼンテーション賞を受賞いたしました。28日は大会の練習機を用いて今年度の新規加入メンバーの飛行練習を行いました。



室内飛行ロボット
コンテスト
への出場

絆

最初、私たちがやろうとしていたプロジェクトの内容は農家から廃棄物を頂き、それを学生に配布し、そこから学生と農家を繋げていき山口大学を地元と深く繋げていくというものであった。しかし農家の方に直接お伺いしに行くと、そもそも学生と深くつながるといよりも新たな市場が欲しいという意見を頂いた。そして、もしそのような企画を行いたいのであれば、自らで農地を探し、冬野菜を育てた方がプロジェクトの趣旨としてもあまり変わらないのではないかとアドバイスも頂いた。そこで、農業委員会をお願いをし山口大学周辺で農家の紹介をお願いした。そこで休耕地の紹介を頂き、私たちプロジェクトメンバーで農業を始める段階にまで至った。今後は農地を整備し種をまきという段階に入るのだが、まだ問題は数多く前途多難である。しかし右も左も分からないなか多くの人に支えられここまで進んで来ることが出来た。お世話になった人たちの気持ちを裏切らないためにもチーム一丸となってプロジェクトの進行を今後も進めていくつもりだ。



新「絆」
プロジェクト
を考える

カンボジアの子どもたちを支えよう！

今月は、先月決めた予定に沿って行うことができた。去年から教育学部、国際総合科学部にある寄付物BOXを回収し、去年高校で集めた寄付を合わせて集計することができた。夏休みということもあり少人数での活動となったが仕訳する人、数える人、記録する人などに役割分担をして効率よく行うことができた。鉛筆は407本、ボールペン493本にノート、絵具、そろばんまで集めることができた。みんなで数えながら喜びを感じることができた。また、来月からは山口中央高校や湯田中学校、西京高校などに依頼してみようと思った。もし上手くいけば今回以上に多くの寄付物を集められると思うので、来月はより力を入れて頑張っていきたい。さらに、大学内でも共通教育棟にも寄付物BOXを置くように依頼してみることにした。学内でもより多くの寄付物を募るにはどうしたらいいのかをよく考えなおしていきたいと思う。



寄付物BOXの
回収と集計

おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています

召しませ、忍者飯！

10月11日、午後4時から学生自主活動ルームにて兵糧丸調理・実食会を行いました。参加人数は今までで最高の8人でした。山口高校放送部さんにも来ていただき、兵糧丸を実際に味わってもらうことができました。また、前回から兵糧丸実食の後に感想をいただくようにしており、今回は多くの意見をもらうことができました。今回のレシピは前回のレシピに梅干しを足したもので、癖が強くなりすぎないか心配でしたが、参加者の方々は全員完食してくださったので大丈夫のようです。今回の調理会で、1回の参加者が多くなりすぎると、全員が調理会に参加するのが難しくなることに気がきました。「調理」会なので、全員がしっかり調理に参加できるように気を付けようと思います。前回と今回の実食後の感想は10月28日の交流会のパネルにて掲示させていただきました。当日実際に兵糧丸を調理できればよかったのですが、諸事情によりできなかったことが心残りです。また、11月の調理・実食会からは、材料費を参加者の人数で割った金額を回収しようと考えています。



兵糧丸調理・実食会
開催

いろいろ



ホームカミングデー
にて手まり出展

10月28日、山口大学吉田キャンパス内でホームカミングデーにおもしろプロジェクトとして参加しました。イベントでは、このプロジェクトについて紹介したポスターと手毬の展示、手毬製作の実演を行いました。当日は、学校関係者の方々の他にも近隣の住民の方たちも来場し、手毬についての質問に答えるなどのことを行いました。また、他のプロジェクトの展示も同会場で行われ、私たちのプロジェクト以外にもどのようなプロジェクトがあるのか知るきっかけとなりました。

Code Orange

28日に本学で開催されたホームカミングデーにCodeOrangeも参加しました。4名がインストラクターとして参加し、共通教育棟情報ラウンジで運営をしました。講習会では、ホームカミングデーで過去最高の、11人が受講してくださりました。小学生の女の子も、一生懸命胸骨圧迫をしてくれて和やかな講習会となりました。私は小学生に講習を行ったのは初めてだったのですが、6年生の先輩がとても分かりやすく丁寧に教えられていて私自身とても勉強になりました。6年生が卒業されるまであと少しですが、今のうちにたくさん吸収していけたら、と思います。定例会では乳児BLSや回復体位、搬送法、RICE、止血法・固定法など多くのことを学びました。また、夏の間できていなかった頌徳碑清掃も行いました。落ちていた葉がすっかり秋色で、季節の移り変わりを感じました。来月はいよいよ医学祭です。医学祭は、コードオレンジの活動の中で最も大切にしているものです。練習会が始まりましたが、練習を重ねるにつれ、メンバーの知識や技術が向上していることが感じられます。より良い講習会運営となるよう、気を引き締めて臨みたいと思います。



ホームカミングデー
にて心肺蘇生講座

スぺ研



CanSatの
プログラミング
勉強会

今月は来年の種子島ロケットコンテストの競技の一つであるCanSatに向けて活動をしました。内容としては4年生からプログラミングを教えてもらい、勉強会を行うというものです。勉強会1回目ではArduinoを使ってサーボを動かすプログラミングを教えてもらいました。プログラミングすることが初めてということもあり最初はうまくいかず、特にif文やfor文を使いサーボを定期的に動かす操作が難しかったです。2、3回目ではArduinoと9軸センサを配線し、ジャイロや加速度を測るためのプログラミングや9軸センサのジャイロの変位によってサーボを動かすプログラミングを勉強しました。時間はかかりましたが最終的にメンバー全員がサーボと9軸センサを扱えるようになり、CanSat製作の第一歩になったと思います。このように4年生からプログラミングやCanSatの情報を教えてもらい勉強会を行うことが効率的だと思うので来月から勉強会を続けていこうと考えています。

おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています

まきちゃんと竹であそぼう

11月30日にツリーのイルミネーション点灯式がありました。そのイベントに本プロジェクトも竹のランプシェイドで参加させていただきました。そのため今月の活動はほぼその準備に費やされました。ランプシェイドは、20~30センチメートル程度の長さにもっとすぐ切ったり斜めに切ったりし、その表面にドリルで穴を開けて、筒の中のろうそくの光が優しく漏れるようにしました。今回の準備では、切り口を斜めに切ると、ドリルで均等な間隔で穴を開けるのが難しかったです。ドリルの扱いは特に難しく、使いこなせるようになるために竹に大量の穴を開けて練習しました。近くで見るとムラが目につきましたが、暗くなり、ろうそくを灯して離れると、予想以上に趣があり、イベントを見に来ていた人たちにもたくさん見ていただいたり写真を撮ってもらえて、とてもうれしかったです。今まで少人数の留学生や小学生向けにしかイベントを行ったことがなかったので、新鮮な感覚でした。大変でしたが、参加して本当に良かったです。



イルミネーション点灯式の
ランプシェイド作り

いろいろ



写真展で
留学生と交流

今月は「おやすみ」「いろづき」「ほっこり」というテーマで写真展を行いました。新たな参加者もあり、賑やかな交流会となりました。先月に引き続き、留学生の参加がありました。印刷された写真を一枚ずつ手に取り「これはなんですか?」「どこの写真ですか?」と撮影者に聞くなど、自然と会話が生まれていました。その様子を見て、本プロジェクトが目指している「自己表現の場の提供」と「交流の場の提供」が達成されているという手ごたえを感じました。留学生に対して、抽象的なテーマのときには、そのテーマの持つイメージや意味を説明しました。擬音語や擬態語、概念がテーマになることも多いので、留学生にどのように説明するかということも勉強になります。テーマは設定しますが、どのように解釈するかは自由なので面白い写真展になっていると思います。留学生の考えや感性に触れる機会はあまりないので、大変良い機会になっています。交流会を通して、さらに輪が広がっていくと嬉しいです。

エン会プロジェクト

年末に近づき12月はメンバーが集まる機会も少なくなることも想定し、先月までの活動のまとめだけでなく、これまでの活動状況とEN会開催の具体的時期も含めた活動方針を中間報告書にまとめる際にプロジェクトメンバーが集まり、それぞれの意見を言い合い情報を共有しました。また、おもしろプロジェクトの交流会で展示するため作成したポスターを図書館内に掲示することで医学部キャンパス内にも告知してはどうかという意見が出たため掲示場所等含め話し合いました。大学内だけではなく、学外へも開かれた会を目指していますが、医学部だけではなく、同じ宇部にある工学部の人へも医学部図書館を利用する学生を通じ、参加を呼びかけ賛同してくれる方には話し合いへも参加してもらおうように声をかけていこうという事になりました。これまでの改善点だけでなく、他の読書会の形態を調べより良いものがあれば取り入れ、次回開催予定の「新しい読書会」のイメージをより身近なものとし、より充実したものとなるよう情報を共有し活動していきたいです。



これまでの総括と
今後方針を討議

カンボジアの子どもたちを支えよう!

今月は、前年度面倒を見てくださっていた先生の研究室に近隣の小・中学校から集めた寄付物がたくさんあるということで、整理も兼ねて集計をしました。鉛筆類は700本近くあり、ペンも500本ほどありました。文房具だけでなく、バスケットボール11個、リコーダー100個、ハーモニカ103個のようにスポーツ用品や楽器などもありました。これらもカンボジアに届けることでためになるのではないかとこの発見になりました。そしてこれからは、文房具だけでなくこれらのものを集めてもいいのではないかとこの発見になりました。また先月、近隣の小・中学校に説明会に行ったのですが受け入れの返事をあまりいただけませんでした。それは、自分たちのPRが足りないと考えたのでこれからの活動に生かしたいと思います。今月は新たな発見がたくさんあった月となりました。



過去の寄付物の
再整理と集計

おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています

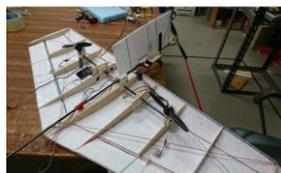
家庭医療べんきょう会

12月は様々なプロジェクトが実施となり、かなり充実した月となりました。在宅医療×ICT講演会は学生と地域の在宅医療関係者など40名余りの参加者とともに白熱した講演会となりました。学生とともに地域の先生方との交流もありとても勉強になりました。効率化すべき部分としてはいけない部分など本当に突っ込んだお話を聞くことが出来ました。さらにやまぐち地域医療セミナーin長門では学生が地域に入り込み、「地域診断」を実施し、翌日の午後から市役所の方々に前に堂々としたプレゼンテーションを行いました。問題点を見つげながら、自分たちに何が出来るかを考えるよい機会となりました。本年度は地域に継続的に関わることをキーワードとして挙げていましたがまず長門に2回目行くことが出来、市役所の方々からもまたやりましょうというお話を頂くことができました。山口大学×長門市でさらなる展開がありそうです。1月からは今度は小野地区での健康教室が始まります。継続は力なのであと僅かの期間駆け抜けます。



やまぐち地域医療
セミナーin長門
にて発表など

電腦飛行



来年度コンテスト
出場のための
新型機の製作

12月は主に、来年度の全日本室内飛行ロボットコンテストを念頭に置いた新型機の製作を行いました。製作中の新型の飛行ロボットは、離陸や着陸、空中での安定性を向上させるために、左右の翼の下側にモーターとプロペラを垂直に取り付けています。その新型の飛行ロボットを体育館で飛行させてみましたが、左右のモーターのパワーの違いや重量の増加でうまく飛ばすことに成功しませんでした。それを修正するために左右のモーターをマイコンで制御し、モーターの取り付け角度を垂直から45度傾けました。1月の活動で修正した機体のテスト飛行をしようと思っています。12月4日にはNHKの取材がありました。電腦飛行の活動内容や、今年度の全日本飛行ロボットコンテストについてなどを取材され、大会に出場した飛行ロボットを飛ばしている所を撮影してもらいました。来年度の全日本飛行ロボットコンテストの意気込みを聞かれたので“目指せ優勝！”と答えました。優勝できるようにがんばって練習していきたいと思っています。

召しませ、忍者飯！

今月の6日に兵糧丸調理・実食会を学生自主活動ルームにて行いました。今回はクリスマスバージョンということで、いつもよりおいしくをテーマにレシピを考えました。いつものレシピからかつお節を除き、ナッツやチョコレートを足したため、甘くてお菓子的な味の兵糧丸に仕上がりました。試食者からの評判は上々といったところです。今回の活動を通して、この企画のみでなく、おもしろプロジェクト全体に興味を持ってくれた人もいたように感じました。また、11日にはおもしろプロジェクトのガイダンス会場の教室で兵糧丸の実食会を開かせていただきました。この時は、会場に足を運んでくださった方々にいつものレシピのもの、少し食べやすくしたものを食べ比べてもらいました。またこのガイダンスの後、調理した兵糧丸を3日間保存・乾燥させ、食べてみました。私としては、こちらのほうが味的にも食感的にも食べやすく感じました。更に今回、兵糧丸は一口で一気に食べるより少しずつ食べたほうが満足感があることがわかりました。



ガイダンスでも
兵糧丸調理実食会
を実施

ICT救急改革

今月は、google home に関してのより詳細な調査を行いました。これまでの会議で、google homeを用いることで音声入力が可能となるのではないかと、という意見があり調べてみましたが、これは既存のアプリや対応家電などの操作のための音声認識が主であり、自由な入力をさせることが難しそうであることがわかりました。また、専用のアプリを開発し、その機能として音声入力をさせるのであれば可能であるかもしれない、ということも分かったものの、その場合はこれまで開発してきたwebアプリとの互換性がなく、1からの作り直しになってしまうので、google homeを用いた音声入力は保留となりました。今後の方針として、他の音声認識ハードウェアの導入や、ソフトウェアによる音声認識を考えていきたいと思っています。特にソフトウェアでは、音声認識を可能とするツールがいくつか出ていることが分かったので、今後それらの利用方法の調査・テスト・導入をしていきたいと思っています。



google home
での音声入力に
関する検証

おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています



第22回 山口大学おもしろプロジェクト 1月



Code Orange

コードオレンジは今年で発足10周年を迎え、1/28に10周年記念式典を行いました。現役メンバーとOBの先生方が一同に集まり、講演会、懇親会を行いました。OBの先生方とのお話を通じて、コードオレンジの活動意義を考える良い機会となりました。また、翌日には、現役メンバーによる総会を行いました。これは、今年度のテーマ、活動内容、方針についてメンバーで意識を共有するための会です。今年のテーマは本団体が10周年を迎え、一步新しいことに挑戦するという意味をこめ「Next Stage」に決まりました。今年新たに県内の高校生向けにBLS講習会を行ったり、外部のワークショップに参加することで救急医学についてより深く学んでいけたらと考えております。例年1月に行われております院内BLSでは、山口大学医学部附属病院のコメディカル対象にBLS（一次救命処置）の講習会を行い、6日間で150名の方に受講して頂きました。今後もさらに多くの方にBLSについて知っていただけますよう、活動を続けて参りたいと思います。



発足10周年記念式典
の開催

Let's connect with Japan ! !



国際交流協会や
平川風の会との
懇談

今月はBREEZEのこれからの活動について真剣に考えた月でした。山口県国際交流協会の方々や風の会の方から外国児童に対する教育機関の対応についてお話を伺いました。特に取り上げるとすれば学校から配布される提出書類やお知らせプリントが日本語表記のものばかりで児童自身は読めても、ご両親が理解できず困ってしまうというものでした。過去に山大学生がこの問題の解決に取り組んだことがあるようで、BREEZEへの提案としていただきました。結局サークル内では活動したいという声が多かったことや、ボランティアで一時的に解決するのではなく教育機関そのものから根本的に解決すべきだという声が多くで実行には移せませんが、国際総合科学部の方から興味があるとの声かけをいただきおもしろいようとしているところです。また風の会の方からは留学生支援の現状を教えていただき、交流ではなく支援の難しさを改めて感じました。その点で力に
なれないかとも思いました。

エン会プロジェクト

年明け初めてのミーティングを行いました。いよいよ3月開催予定のEN会まで数か月となり、これまで話し合ったことと合わせてこれから具体的に何ができるのか意見を出し合い、より良い会にしようという目標を確認しました。地元で頑張る方をお呼びして地元の魅力を再発見するという企画をお願いしている近くのお菓子作りの職人の方とも連絡を取り、ケーキ作りの実演とお話をしてもらえことになりました。防府市で珈琲にかかわるお仕事をしている方にも連絡を取り、EN会の趣旨を説明すると、賛同していただけただけで山口で仕事をする事について、そして珈琲セミナーで仕事に対する想い等、お話をしていただけることになりました。EN会まで限られた期間ではありますが参加する人が参加してよかったと思えるものになるよう努力したいと思います。2018年も参加メンバーを増やすよう努力し、これまで以上に皆で連携してEN会開催成功を目指して活動していきたいです。



3月開催予定の
EN会に向けての
ミーティングなど

TRICK ART !

今月はテスト等が多くあり、みんなで集まることがあまり出来ませんでした。そのため活動自体は進んでいない状況です。中でも、アイデアという点では進んだように感じています。今までつくったもの、考えたものをもとにどうしようか、様々な作品がある中でどんな風に作っていくかの構想ができてきました。突然ですが私が錯視に興味をもち始めたきっかけは、テレビでみた映像でした。そこから錯視という分野を勉強しはじめて、数学的、心理学的など様々な側面から考えるようになりました。今までは見たものから学んできましたが、今度は実際に作っていく側になりたいと考えています。私にとって錯視とは生活をより良くしてくれるものだと思っているので、そういった活用ができるような取り組みをしていきたいです。まだ見たことない人にも興味をもってもらえるようなものがつくれるよう、みんなでアイデアを出し合いながら頑張りたいです。来月は集大成になればよいと考えています。



日進月歩

おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています

いろいろと

2月12日、防府天満宮で開催された針供養に参加しました。当日はあいにくの大雪でしたが、普段めったに体験することが無い神事に立ち会うことができました。針供養の後、同じ会場内で行われていた「ほうふお針祭り」にも参加し、地域のものづくりをしている方々のワークショップに参加しました。



防府天満宮の
針供養への参加

Let's connect with Japan !!



外国児童支援
についての講座に
参加

外国児童や保護者に対する連絡プリントの翻訳依頼や、風の会から提案があった外国児童や保護者、日本人の児童・学生との交流を目的とする寺子屋の実施を考えるにあたって、外国児童支援についての講座に参加しました。この講座では他県でどのような支援がなされているのかがよく分かるものでありました。語学力が必要とされる現場でいかに言語の壁をなくしていくかについての取り組みは特に興味深かったです。例えば保育園で必要な会話は指さしシートを取り入れたりなどです。しかしながらボランティアで外国人の支援をしていくことの問題点や難しさを改めて感じたものでもありました。1年間おもしろプロジェクトで留学生と日本人学生をつなぐ活動をしてきましたが、正直反省点ばかりです。風の会の活動に頼りっぱなしでありましたし、留学生とのネットワークがすべての構成員にできたとも思えません。しかし活動を通して、少なくとも私や一部の学生が外国人への理解や、こういった企画や運営の難しさ、面白さを知ったのは事実でありますし、数少ない活動ではありましたが留学生に日本人との交流や日本文化体験を提供できたのは嬉しいところです。

電脳飛行

今月は、先月製作した新機体の制御プログラムを作成しました。この新機体は推進用プロペラの他に、姿勢制御用に主翼下部にもプロペラを備えています。新機体は先月初飛行しましたが、この際には姿勢制御用プロペラは推進用プロペラと同じ入力を加えるようにしており、姿勢制御はエルロンと呼ばれる舵のみで行って行っていました。そこで、姿勢制御用プロペラによって機体を水平に保てるように、マイコンに書き込むプログラムに変更を加えました。機体が傾くと、自動的に機体の姿勢が水平に戻るよう左右主翼下の姿勢制御プロペラの回転数が制御されます。なかなか思ったとおりにモーターを制御できずに苦労しましたが、最終的にモーターを制御できるようになりました。13日のおもプロ交流会には、電脳飛行のメンバー2人が参加しました。交流会では、工学部だけでなく医学部や本学のおもプロの方ともグループワークを行い、お互いへの理解を深めることができました。来年度のおもプロへ向けてどのようにプロジェクトを構想するかのヒントを得ることができたと思います。



新機体の
制御プログラムの
作成

おもしろプロジェクト報告会 開催のお知らせ

下記の日程で「第22回おもしろプロジェクト17報告会」を開催いたします。2017年度に活動を行った14つのプロジェクトがその成果を発表します。また報告会の前後2週間には「おもプロ学長賞」の投票も開催され、自主活動ルーム前や工学部、医学部の学食前に各プロジェクトの活動概要ポスターも掲示されます。おもプロに興味のある方、30年度に応募してみようかと考えている方など、多数の来場をお待ちしています。

場所：共通教育棟 15番教室
日時：2018年4月8日13時～17時30分

問い合わせ先：学生自主活動ルーム

おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています



第22回 山口大学おもしろプロジェクト 3月



第23回おもしろプロジェクト'18を募集

平成30年度プロジェクト募集

募集要項・申請書は山口大学ホームページ「おもしろプロジェクト」からダウンロードできます



キミのやる気を応援します

思う存分、夢を「カタチ」にする。
山口大学おもしろプロジェクト

申請締切 4月27日(金) 13:00

※おもしろプロジェクト（おもプロ）とは学生の自主的・創造的企画に資金援助する山口大学オリジナルの学生支援事業です。

国立大学法人山口大学 大学教育機構 学生支援センター
学生支援部 学生支援課

おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています